

ひろしま 住まいづくりコンクール

2019 作品集



リフォーム
部門



空き家再生
部門



新築
部門



「ひろしま住まいづくりコンクール」は、
住む人の笑顔とプロフェッショナルたちの成果を
広く伝える場所です。



主催 広島県
ひろしま住まいづくり支援ネットワーク

広島県、呉市、福山市、三次市、東広島市、廿日市市、
(独法)住宅金融支援機構中国支店、(公社)広島県建築士会、
(一社)広島県建築士事務所協会、(公社)日本建築家協会中国支部、
(一社)広島県建築センター協会、広島県住宅産業三団体協議会、
(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部

後援 中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、
広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、
広島エフエム放送、国土交通省中国地方整備局

事務局 ひろしま住まいづくり支援ネットワーク
「ひろしま住まいづくりコンクール2019」事務局

(公社)広島県建築士会 事務局
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL082-244-6830(代)

コンクール応援隊は、ひろしま住まいづくりコンクール2019 を応援しています。



コンクール応援隊に関しては、広島県住宅課にお問い合わせください。

INDEX

01-02



広島県知事賞
瀬戸内の趣を楽しむ家
國本 広行さん [國本建築堂様]

03-04



リフォーム部門 最優秀賞
マンションプロジェクトF —土間から繋がるひとつづきの空間—
古本 竜一さん・奥田 秀樹さん・升本 徳之さん [楳古本建築設計]

05



リフォーム部門 優秀賞
繋ぐ住まい
森保 良太さん [MORIYASU DESIGN]

06



リフォーム部門 優秀賞
イニシエの街に仲間とあかりを灯す町家
田中 伸治さん [株式会社工務創(屋号:リフォームウイズ)]

07-08



新築部門 最優秀賞
府中家具の手「若葉の家」
千葉 大輔さん [南コアハウス]

09



新築部門 優秀賞
宮内の家
永本 清三さん [永本建設様]

10



新築部門 優秀賞
中庭のある家
中村 克彦さん [中村克彦建築事務所]

11-12



空き家再生部門 最優秀賞
西条の家
梶田 栄子さん [ef 設計室]

13



空き家再生部門 優秀賞
2つの家をつないで広々と暮らす
田中 健太郎さん [株式会社タナカ住建]

14



リフォーム部門 奨励賞
暮らしを謳歌する終の棲家
高原 良彦さん [株式会社坂田工務店]

15



新築部門 奨励賞
大空間の家
高原 良彦さん [株式会社坂田工務店]

本作品集に掲載の1㎡当たりの工事費の目安については、次の点に注意して参考にご覧下さい。
※外構工事費は含まれていません。
※リフォーム部門・空き家再生部門の作品は工事床面積、新築部門の作品は延床面積を基準としています。

～ ごあいさつ ～

「住まいづくり」は住み手にとって、夢と希望に満ち溢れた人生の一大イベントです。街中のマンションに住みシティーライフを楽しむのも素敵ですし、島嶼部や中山間地域の空き家をリフォームしてのんびり暮らすのも魅力的です。また、変化する家族構成に合わせて間取りを変えていくことも暮らしを豊かにする手段の一つだと思います。近年はIoTなどの技術革新や住宅の長寿化など、「住まい」に対する課題は多岐にわたる時代になっています。ただ、どのような時代であっても「住まい」に求められるのは、「住まい」とおして「生活を充実させる」ことではないでしょうか。

ひろしま住まいづくりコンクールは、住み手の「住まい方」が多様化し、様々な選択肢が存在する中で、住まいづくりの見本・好事例を広く紹介することにより、本県の住環境のさらなる向上と住宅産業の活性化に寄与することを目的としています。今年度で10回目を迎えたこのコンクールには、41作品(リフォーム部門18作品、新築部門18作品、空き家再生部門5作品)の応募をいただき、審査委員会による厳正な審査の結果、広島県知事賞をはじめとする11点の受賞作品を選定いたしました。

このたび広島県知事賞を受賞した作品は、推定築後約100年の古民家を購入し、リノベーションされた住宅で、ライフスタイルに沿った間取りの見直し、水回りの改善、及び断熱対策により生活の質の向上が図られ、これからの空き家再生の手本となるような作品です。また、最優秀賞には、市街地のマンションに、気軽に人を招き入れ談笑できる「土間」を設け、全ての引き戸を開け放つと風が吹き抜けるようにリフォームした作品、建築計画と家具の設置計画を並行して進めることで、家具と建築が相互に有機的に関わり、使い勝手・デザインの両面で品質の向上が図られるよう新築された作品、空き家であった物件を、長期優良住宅化リフォームの基準に適合させて品質の向上を図るとともに、大きな開口を設けることでウチとソトをつなぎ、光や風が通り抜ける暮らしの場となる住宅に再生させた作品が選ばれています。

この作品集には受賞した11作品について、「住まいづくり」に対する住み手の理想や様々な希望、設計者や施工者等のノウハウや創意工夫、住み手と創り手がともに創り上げた「住まい」をまとめてみました。皆様にとって豊かな暮らしを実現させるための参考となり、理想の住まいづくりの一助となれば幸いです。

最後に、このコンクールに応募いただいた多くの皆様、厳正な審査をしていただいた福田委員長をはじめとする審査委員会の皆様、そして、御協力いただいた関係団体の皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

広島県都市建築技術審議官 友道 康仁



瀬戸内の趣を楽しむ家

尾道市



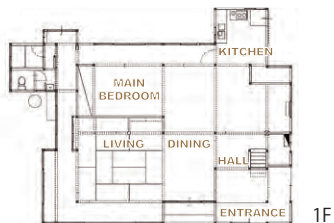
床下に断熱材を施し、無垢のフローリングに差し替えた。新設した障子や床は既存の風合いに馴染むよう仕上げた。



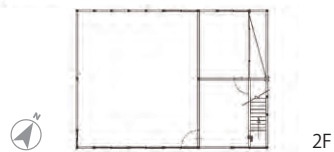
after

1階にゲストが来た際も家族だけで寛ぐことが出来る2階のファミリーリビング。

before



1F



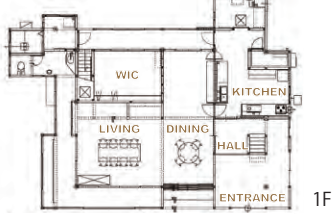
2F



before

リノベーション前は、2階部分はほぼ活用されることがなく勿体ない空間となっていた。

after



1F



2F



劣化が激しかった2階の外壁を焼杉板に張替え、ダイニングの窓には木枠の網戸を造作した。



梁に繋がるキャットタワーを設け、ペットの猫にとっても楽しく暮らしやすい家づくりを行った。



before

作業スペースが少なく、調理器具等の収納スペースも不足していたリノベーション前のキッチン。



after

夫婦一緒に作業しやすいオープンキッチン。ゲストとの会話を楽しみながら料理ができるようにした。

創意工夫点

古民家の趣を損ねることなく、ライフスタイルに合った間取りの見直し、水回りの改善、寒さの解消等を図り、生活の質の向上を図った。施主様が気に入られていた梁や土壁は、見せる形で既存利用し、新規に差し替える箇所も素材の質感を活かし、古民家から感じられる木、土、紙のぬくもりが尊重されるよう留意した。将来的には、自宅と兼用して地域のコミュニティ拠点やゲストハウスとしても活用したいという施主様からの要望から、1階はLDKが一体となるようにし、大勢でも交流を図りやすい見通しの良い空間を演出した。

建築主	非公表
設計者	國本 広行さん 〔國本建築堂株式会社〕 TEL(0848) 3890991
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ



大人で居てもコミュニケーションを図りやすいよう、見通しの良いLDKの空間を演出した。



2階のキッズルームを完全に個々の空間で囲うのではなく、程よく仕切るだけに留め、家族との繋がりを感じられる空間にした。

選評 審査委員長 福田 由美子

向島の集落内にあった築百年を超える空き家を若い世帯が購入し、ライフスタイルに合わせて改修した事例である。独特の小屋裏構造や土壁など古民家の趣を残しつつも、家族の視線に配慮したオープンキッチンや断熱材などを工夫することで、この家固有の魅力で豊かな空間が実現できている。今後も、納屋の活用など住みながら家に手を入れていくことが想定されており、古い家が若い世代の暮らしとともに生き続けることが評価された。

選評 審査委員 有我 敦

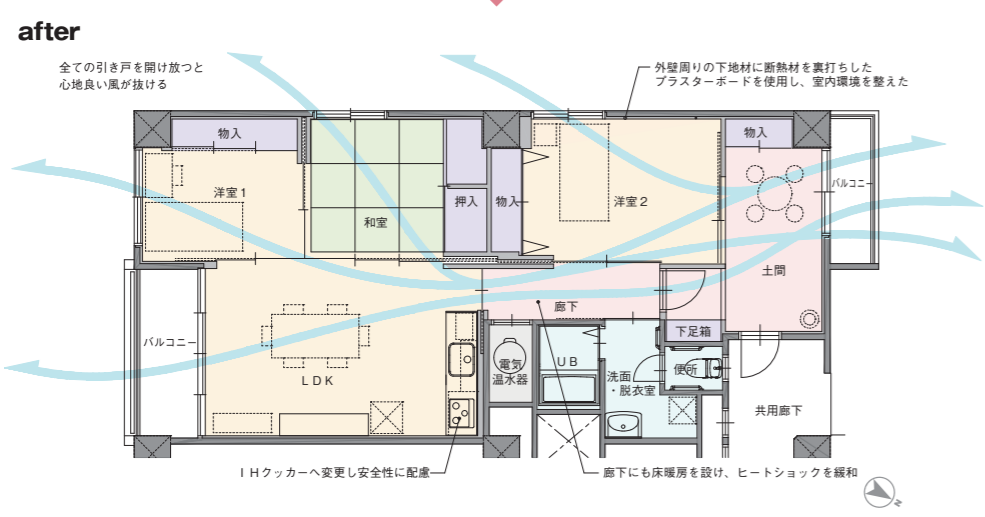
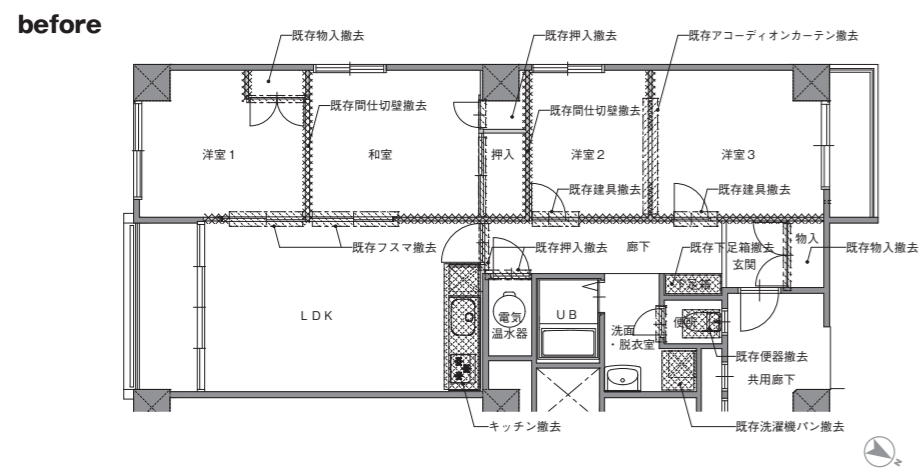
施主は若いご家族ながら古民家ならではの材料や雰囲気の評価を認め、設計者と協力し限られた費用を実用的かつ効果的な改修工事に絞ることで、タイトル通りとても「趣」のある魅力的な空間づくりにつながったと思う。また、住まい手がはじめからの完成形を目指すのではなく、少しずつ住みやすい環境づくりをしており、「住まいづくり」を継続して楽しんでいくと感じた。その意味でも、本作品は、住まい手が古い住宅の価値を認め、住まいづくりに参加することは空き家対策上も有効だと気づかせてくれる好事例であろう。

マンションプロジェクトF — 土間から繋がるひとつづぎの空間 —

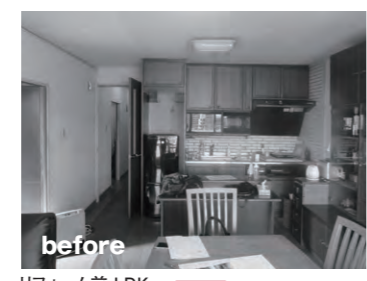
広島市



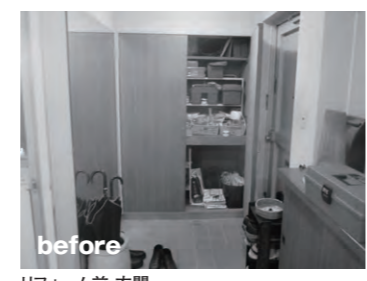
庭先的な仕掛け、「土間」。そこをきっかけに、気軽な談笑も室内とひと続きにゆったりと語らうも自在だ。



IHクッカーを採用し、浴室・トイレへの動線である廊下にも床暖房を設置。安全性の確保も主題のひとつだ。



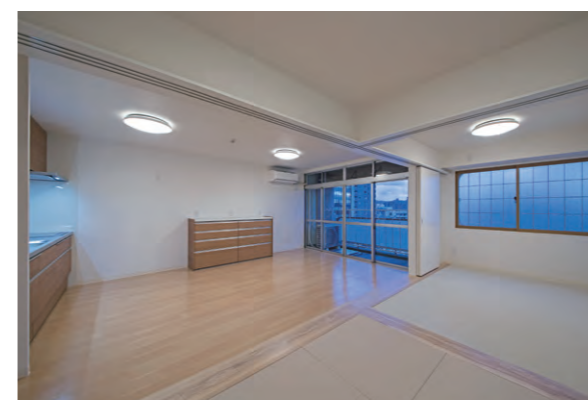
リフォーム前 LDK



リフォーム前 玄関



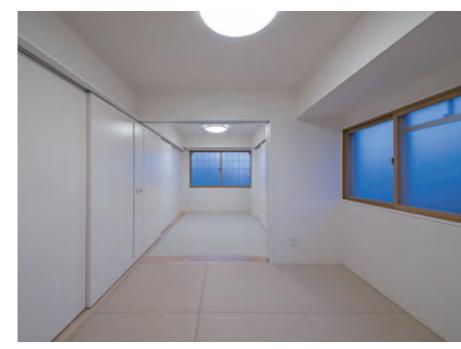
引戸を開け放つ。全ての部屋はシームレスに繋がり、風が流れ、陽光も部屋の奥まで届けられる。



使い慣れた間取りはそのままに、間仕切りの形態を可能な限り引戸へ変えた。ドラマチックな変容が楽しめる。



シームレスな室内を「土間」へ、バルコニーへと開放する。半戸外的な魅力が加わり、風もたおやかに流れる。



可変する間仕切りは場面に応じて簡単に空間の分節が可能。外に面する壁に断熱材を補完し居住性も向上した。

創意工夫点
40年を超え人生を紡いできた場所である。同じマンションに暮らす住民同士、交流が図られてきたという。集合住宅の7階にあつて、長屋の庭先の様な、気軽に人を招き入れ談笑する仕掛け、「土間」を設けた。共用廊下から一歩足を踏み入れた先、かつて個室であつたところは、バルコニーへと放たれ半戸外となり、シームレス性を得た室内とも連続し、ひとつの空間となる。「土間」をきっかけにどんな交わりが展開されていくか楽しみだ。

建築主	藤田千歳さん
設計者	古本竜一さん・奥田秀樹さん [株式会社建築設計] TEL(082)5425442
施工者	寺戸亜樹さん [株式会社装建] TEL(082)2921657
企画 立案者	設計者と同じ

選評 審査委員 長谷川順
新築当初から今日まで、約40年間住み続けているマンションのリフォーム。間取りの大幅な変更はせず、間仕切りは建具が収まる程度に内壁を残し引戸に変更している。全ての引戸を開け放つと、開放的で部屋を風が通り抜けると共に、壁に収まる引戸は、来客等にに応じて部屋の使い方が変えられるように設計されている。また、入口の「土間」を広くして、近隣住民との交流が図られるように工夫されている。床暖房や断熱性の向上、バリアフリー等に配慮されている等、高齢者世帯のリフォームの参考になる作品である。



繋ぐ住まい

広島市



キッチンからリビング全体を見ることができ、常に家族の気配を感じることができる。

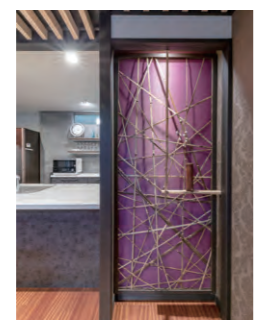


イニシエの街に仲間とあかりを灯す町家



和と洋、モダンとレトロが洒落に融合した仲間も集うLDK。吹抜けに浮ぶ黒光りした古い梁が趣を感じさせる。

before

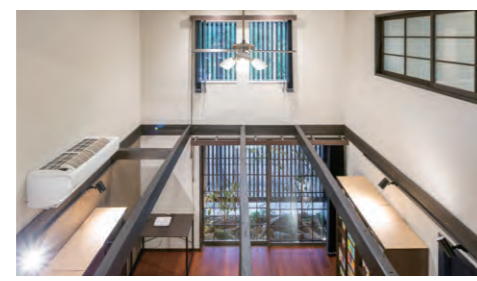


地元竹原の伝統工芸の竹細工を組み込んだデザインウォール。若手作家とコラボしてサプライズ提案。

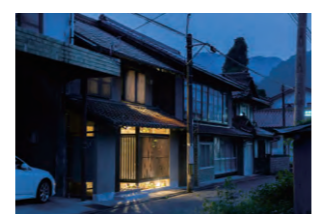


男が楽しめるキッチン。ダイニングの低い天井には、古い黒い梁の間に新しい白木を配置しコントラストをつけた。

after



納戸だった2階は一部、吹抜けとロフトに。ロフトから坪庭まで光や風が通り抜ける設計。



慣れ親しんだ町家の佇まいを継承。道路からの視線を適度に遮断しつつ、灯りの漏れる坪庭と格子。

竹原市

選評 審査委員長 福田 由美子

かつては商店が建ち並び賑わった故郷の通りに、再び明かりを灯したいという住み手の思いが、幼少期を過ごした町屋をリフォームするきっかけで実現した。表通りに面しては格子と坪庭で表情をつくり、暗く圧迫感のあった町家型のLDK空間を吹き抜けのある開放的なLDK空間に改修することで、気の合う仲間が集い楽しむ雰囲気や建物の内と外に生み出している。遠隔地との二地域居住の一拠点として使われており、新しい住まい方としても興味深い。

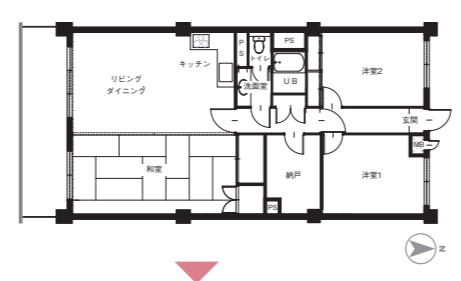
創意工夫点

歴史ある街道沿いに明治時代に建てられた町家。寂れていく街並みに軒でも灯りを灯し続けたいと帰郷し、人暮らしを快適に過ごせる住まいへ改修した。同級生やゴルフ仲間が集う家にというご主人の希望から、大人の隠れ家をイメージして提案した。

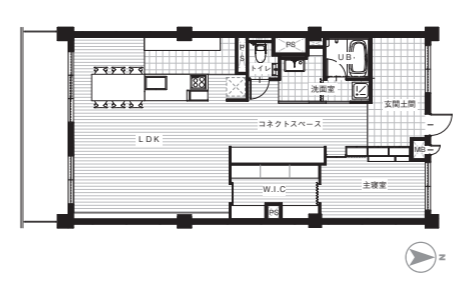
耐震性や寒さ対策は勿論のこと、既存の梁や地元の工芸をインテリアに盛り込み、空間の居心地に拘った。ただの古民家再生ではなく、様々な時代を駆け抜けたこの家と人にふさわしい時と趣を感じさせる空間に再生した。

建築主	大田 芳穂さん
設計者	田中 伸治さん TEL(082)49003676
施工者	松本 昭彦さん TEL(082)49003676
企画 立案者	設計者と同じ

before



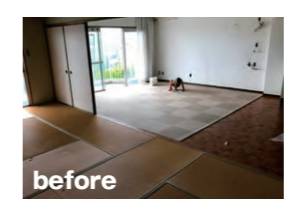
after



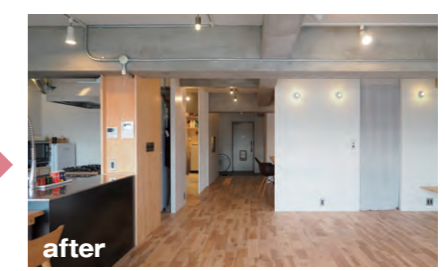
玄関を開けると、リビングまでの開放的な空間が見えてくる。



コネクトスペースは、廊下の幅を広げ、家全体、人と人を繋ぐ役割を果たしている。

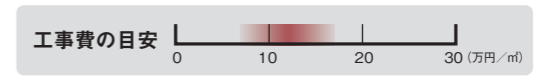


before



after

床はカバ無垢フローリング。天井はクロスを剥がし、AEP塗装。梁はアクセントにモルタル仕上げ。



選評 審査委員 元廣 清志

築40年のマンションをスケルトン解体し、ワンルームへリノベーションすることで、家族の繋がりを重点にデザインしている。

計画はシンプルであるが、ドアの設置を最小限とし、常に人の温もりを感じながら住もうとしている。玄関脇に土間を設け、マンションの狭い空間を和らげ、天井の低さを感じさせないよう、技術的に工夫をして、若い世代が住むマンションのリフォームとして、バランスの取れた作品である。

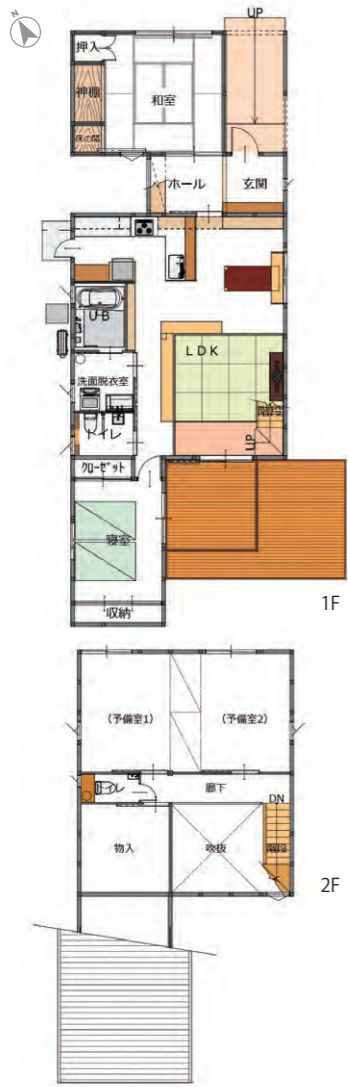
創意工夫点

築40年、94㎡3LDKのマンションをスケルトン解体し、ワンルームへリノベーションすることにより、人と人を繋ぐ空間をデザインした。玄関を開けるとバルコニーからの心地よい風を感じることができ、この家は、空間を繋げるためにドアは、トイレと寝室のみ。常に人の温もりを感じながら生活することができ、生活の変化に対応できるフレキシブルな空間をデザインした。

建築主	非公表
設計者	森保 良太さん MOHAYASU DESIGN TEL(060)2800362016
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ

府中家具の手「若葉の家」

府中市



建替え前の旧宅の広縁に使われていた肥松の一枚板を玄関の床に再利用。思い出の継承を図った。



階段の側板には家具用の木材(アッシュ材)を採用し、曲がり部の接合に家具用の金物を使用した。



玄関からの来客の視線を家具でカットし、緩く空間を区切ったLDK。



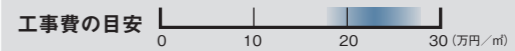
壁面の造作家具の建具と、洗面脱衣室の入口建具の素材・面を揃え、連続させて一体に見せた。



府中家具伝統の箱物家具で壁面を構成し、収納がそのまま空間デザインとなっている。



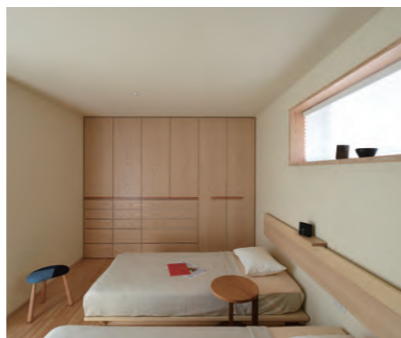
家具店で販売されるテーブルをカスタマイズし、窓枠に片側を持たせて建築との融合を図った。



選評 審査委員 山田孝延
市道拡幅のため建て替えた高齢夫婦の家である。世代交代による変化にも対応出来るように、骨組みとなる躯体スケルトンと住宅内部の設備間仕切り(インフィル)の関係を調整した。また、家具デザイナーとの協働で収納・生活家具、設備等の計画と建築計画が一体となり、材料と詳細が統一されたユニットな内部空間が巧みに構成されている。90cmではなく1mを単位とする寸法計画がゆとりをもたらし、暖冷房、給湯、換気を一体化した設備と共に、高齢者にとって快適な生活が営まれる、優れた住宅である。



オフホワイトのガルバリウム鋼板の外壁と木崩の外観。世代を問わず似合うようシンプルにまとめた。



密閉性・保存性に優れる府中家具の箆筒を壁面にビルトインさせた寝室のクローゼット。



既製品キッチンの前板を取り外し、家具の材料で製作した扉に交換することで家具との調和を図る。

創意工夫点
クライアントは府中家具の製造販売業を営んでおり、家具と住まいの緊密で新しい関係性を発信したいという思いがあった。
プロジェクトでは、建築計画と並行して設置する家具を決め、それに合わせて空間設計を肉付けし、形を切り出す手法を採用した。その結果、採用した家具のカスタマイズや、建築への家具素材の応用、家具と建物の融合した設えなど、府中家具と建物の新しい関わり方が生まれ、「暮らしやすい」という家の本質を具える空間となった。

建築主	設計者	施工者	企画	立案者
非公表	千葉大輔さん [有]コアハウス TEL(084)9583111	設計者と同じ	井上隆雄さん [若葉家具株]	TEL(0847)455816
	小泉誠さん+Koizumi Studio TEL(042)5741458			



木組みの美しい外観。白と黒のコントラストが印象的な落ち着いた佇まいとなった。



同一敷地内に親子3世代の家が連なる。近隣の景観と溶け込む純和風建築となった。



造作家具も大工の手仕事によるもの。家同様、無垢の素材にこだわった。



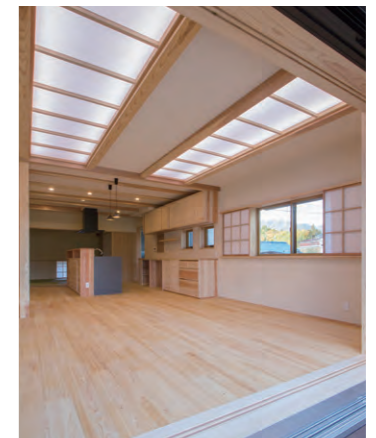
繊細で美しい格子を取り入れた玄関は職人による造作。



木組みの見える天井とし、下部に間仕切り壁を設けた子供室。



構造材には地元産の杉・松を使い大工による手刻みで仕上げ、力強い木組みをダイナミックにあらわした。



リビングの掃き出し窓からはデッキへ連なり、広々とした明るいリビングになるよう計画した。



2棟に挟まれた中庭。中央に植えたカツラの木が成長して木陰が出来るのが楽しみである。



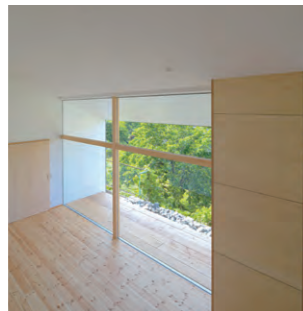
塀の向こう側に中庭があり、道路からは見えなくなっている。外壁を同じ材料にして、2棟に分かれていても一つの住宅と分かるようにした。



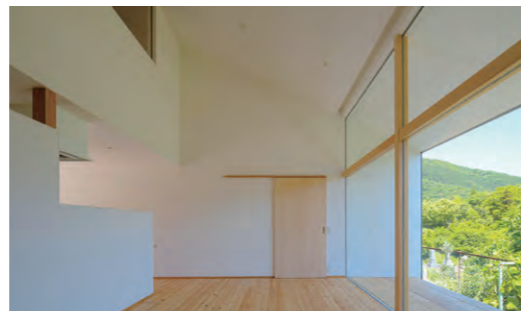
中庭とリビングは同じ高さの床で連続感が感じられるようにした。外壁には丸い輪が取り付けられてあり、日よけ対策でテント地を張る事も出来る。



敷地が少し高い所にあり、リビングから見える景色は谷を見下ろすようになる。谷の向こう側の山まで見え、開けた眺望になっている。



リビングからの眺望を良くするため、全面ガラスにした。右の壁はカーテンの閉じしるスペースになっている。



2階からの片流れの天井になっており、左に見える2階の寝室の窓からリビングを見ることでワンルーム感覚の家になっている。



選評 審査委員 的場弘明

郊外の古い住宅団地内にある狭い行き止まり道路の先端に立つ、書斎兼事務所を持つ戸建て住宅である。一見、魅力の少ない敷地の先には、素晴らしい眺望が開けている。眺望を活かすため住宅の向きを縦向きに、書斎棟を分棟とし、中庭を同レベルで繋げる事で、一体感と開放感のあるプライベート空間を生み出している。オーナーは格安で敷地を購入されており、条件が不利な敷地であっても、設計の工夫により、土地固有の魅力を活かし、自分らしい生活を誰でも実現できる事を示した好事例である。

創意工夫点

2棟の建物の間が中庭になっている住宅である。眺望の良い北東に2階建てのリビング棟を設け、道路と並行に平屋の書斎棟を設けた。中庭は目線の切れる扉によりプライベートな空間になっている。雨の日にはうすうすと水がたまり、気温が下がれば薄氷ができる。リビング棟の屋根は片流れの大屋根であり、樋を設けないことで、雨の日には雨粒が落ち、雪の日は雪が落ちてくる。中庭を含め季節を感じられる家になったのではないかと思う。

建築主	非公表
設計者	中村克彦さん 〔中村克彦建築事務所〕 TEL(082)293・8620
施工者	中村隆二さん 〔ファミ建設㈱〕 TEL(082)818・3900
企画 立案者	設計者と同じ

選評

審査委員 元廣清志

ほとんどの時間を奥様と二人のお子様がお過ごしされる若い世代の典型的な家族が、同一敷地内に3世代が連なった建物で、外観も世代間を感じさせない、伝統的で美しい連続した景観を作り上げている。木材は県産材を使用し、内装には自然素材を活用し、木材加工は手刻み、外壁は漆喰塗など伝統工法にこだわって、耐震や高い断熱性能を持たせ、気候風土に合った建物を実現しながら、若い世代の要望によく応えた作品である。

創意工夫点

伝統工法の良さを残しつつも高い断熱性能を備え、内装には安心・安全な自然素材を使用し、若い家族が暮らしやすい住宅となるよう心がけた。敷地内のご実家と玄関を向かい合わせにする形で計画し、お互いの家を行き来しやすいオープンコート、プライベートも確保できるように配慮した。漆喰仕上げの外壁により同一敷地内の建物と調和を取ったことで、昭和・平成・令和の時代においても純和風建築の風情を実感していただける住宅となった。

建築主	非公表
設計者	永本清三さん 〔永本建設㈱〕 TEL(0829)316655
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ

西条の家

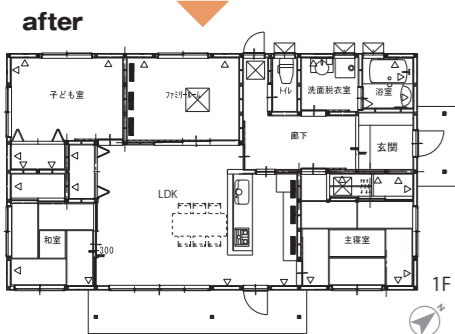
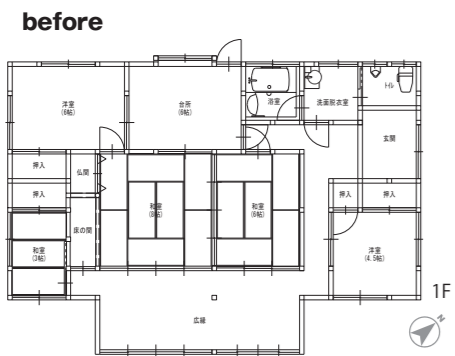
東広島市



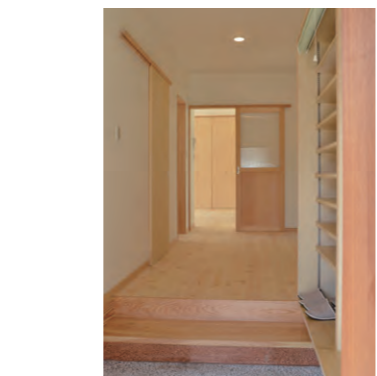
LDKからつながる小上がり和室。現在建具はないが敷居と鴨居があり、将来的に建具も入れられる。



リフォーム前 和室



南側のテラスに大きな雨庇(アマハジ)を設えた。小さな農にも役立ち、暮らしを豊かにするスペースに。また夏場の日射遮蔽にも役立つ。



玄関には大容量の収納を大工製作にて設えた。



ファミリールームはLDKから一体的に続く。子どもが成長すれば子ども室、巣立っていけば書斎等に。可変性のあるスペースにした。



LDKはこの家の中心。ここから暮らしが放射状に広がる。



劣化したモルタル外壁は撤去、軽量のサイディング+杉板を張り清々しい印象にした。



リフォーム前 外観



リフォーム前 台所

創意工夫点

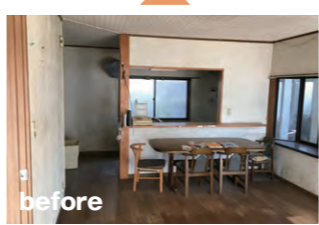
築47年の中古住宅を30代夫婦が購入。限られた予算の中で、若い家族が今後の長い人生を、心地よく安心して営んでいけるよう、長期優良住宅リフォーム事業の基準に則り、耐震性、省エネ性などを向上させ、再生した。小さな農を営みながら、家族みんなでのおおらかに暮らしたいとの建築主の要望に応じて、家の中心にキッチンを設置し、大きな開口部を設けることで、ウチとソトをつなぎ光や風が通り抜ける暮らしの場とした。

建築主	非公表
設計者	梶田 栄子さん [ef 設計室]
施工者	梶田 正文さん [南フカガワ]
TEL	(0847) 33-0668
TEL	(0847) 33-0668
企画 立案者	設計者と同じ

選評 審査委員 豊田 隆雄
高度経済成長期によく見かけられた木造平屋建てのモルタル塗りの住宅である。若い家族が新しい暮らしを紡ぐための家として購入された。家族の気配が感じられる家づくりを叶えるため、LDKを中心に置き家の中を見渡せるプランとしている。また、内外をつなげる大きな開口部を設置し、自然を取込んだ家である。素朴な改修ではあるが、シロアリ対策、耐震補強、断熱強化、自然素材の採用など、長期的にわたり使用出来るよう工夫がなされている。



after
対面キッチンで会話も弾むオープンな空間。お孫さんが遊ぶリビングの気配も感じられる。



before



高齢になっても水廻りが近く、生活をコンパクトにすることもできる。



LDKの3枚仕切り戸は、光を取り入れられるガラス入りの白色にして、圧迫感を無くしている。



before

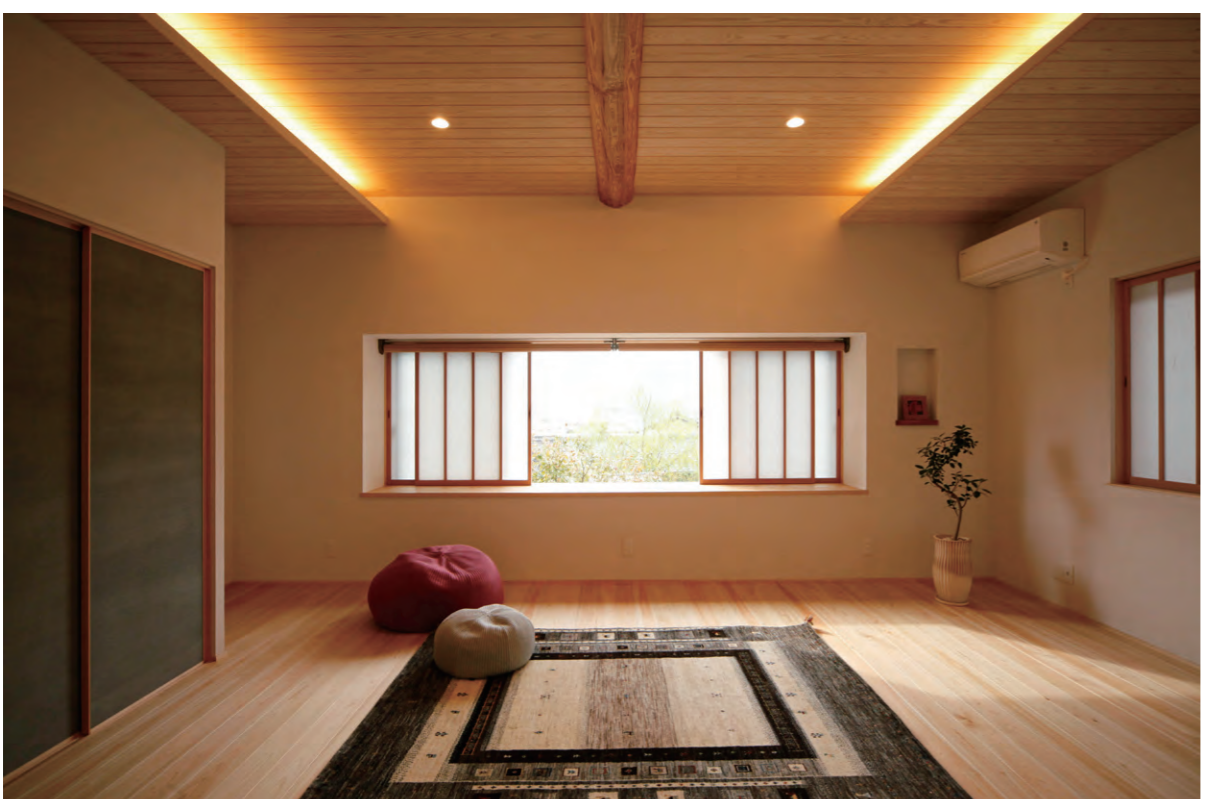
二棟をつないだ増築部分。屋根はガルバリウム鋼板で葺いているが、熱や雨音が届かないように配慮した。



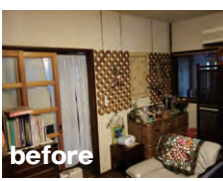
after



before



以前は和室。既存の梁を現地で削りあらわしとすることで、建物の歴史を象徴的に表した。



before

以前は収納スペースが少なく、物があふれやすくなっていた。居住性も悪く、夏の暑さ・冬の寒さにも悩まされていた。

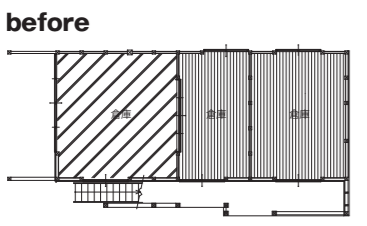


after

敷地東側にある竹林の眺望と庭木を眺められるよう現地で窓の大きさと位置を調整した。



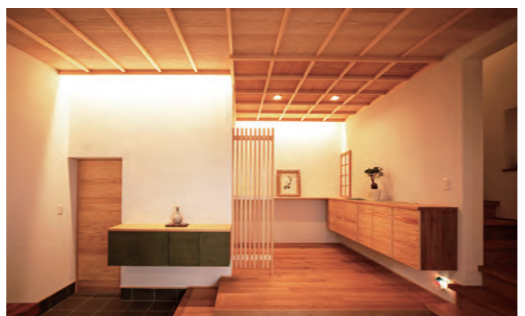
大工製作による大容量のキッチン収納。奥はパントリーになっている。



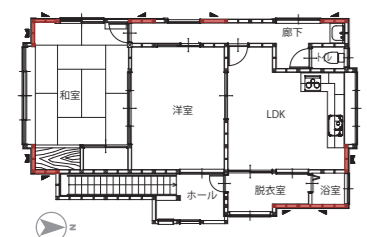
before



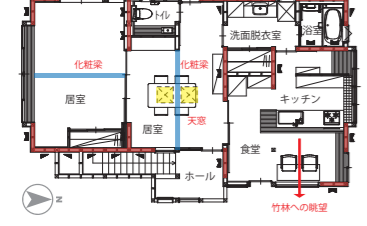
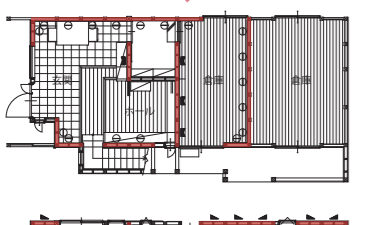
2階の洋室は窓がない暗い部屋だったが、天窗を設けることで光が入り込むつながりの間になった。



以前は倉庫。玄関土間スペースを広くとり、来客用のテーブルセットが設置できるようになっている。



after



建築主	非公表
設計者	高原良彦さん [株]坂田工務店 TEL(0826)452218
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ

創意工夫点
住宅密集地に建つ築50年の2階建の住宅。住まい方の変化に合わせて間取りを変え、改修を行った。
躯体を残して床・壁・天井を解体後、構造計算に基づき耐力壁の設置と不陸の調整をしながら耐震補強や断熱施工を行った。改修前は収納スペースが少なく、外壁に面していない部屋もあり暗い部屋となっていたが、風の流れや自然光を取り入れる工夫を行った。改修後は天井の中に隠れていた梁を、改修後は現地で削りあらわしとし、間接照明を設置し、住み継がれた建物の歴史を象徴的に表した。

選評 審査委員 岩田忠二
団地内の隣接する空き家をつなぎ、まるで当初から一戸建てかと思える物件である。
室内に入ると、接合部であるDKからリビングにおいて耐震補強も建具クロスの色調などで工夫をされ圧迫感を無くしている。間取り全体に収納を配することで広々としたスペースをもたせた設計である。
それぞれの建物が偶然に出会い、新しく生まれ変わった作品だ。

創意工夫点
2件の隣合った戸建てをつないで広い生活空間を確保した。住宅診断を基に耐震性や断熱効果を向上させるように設計している。川が近いためか湿気や水音が気になっていたため、主寝室を川から離し、他の部屋も風が通り抜けるよう開口部を多くした。全室バリアフリーとし、続き間をオープンにしやすいよう引戸を採用している。

建築主	非公表
設計者	田中健太郎さん [株]タナカ住建 TEL(082)8428503
施工者	藤槻勝さん [株]タナカ住建 TEL(082)8428503
企画 立案者	設計者と同じ



周囲に里山と田園風景が広がる場所に建つ。周囲の景観に溶け込むように銀黒色の和瓦葺きとした。



2階廊下はコレクションスペースとしても活躍。その裏にはゆとりのある小屋裏収納も確保した。



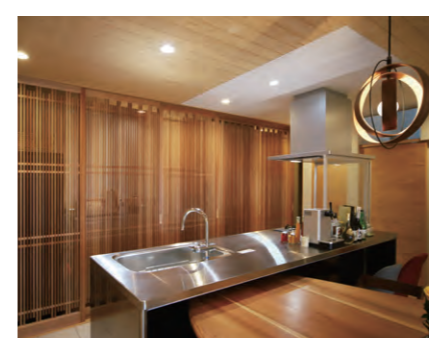
リビングの壁にはボルダリングと登り綱。高さ2.7mを子供は一気に登りきる。



畳コーナーは子供の昼寝スペースとしても活躍。おむすび型のダイニングテーブルはご家族の手作り。



2階吹抜けから見たリビング。



キッチン背面は格子戸で隠すことができる。引込戸のため普段は収納し来客時に生活感を見せずに対応可能。

創意工夫点
周囲に里山と田園風景が広がる敷地に建つ子育て世帯の住まい。自然豊かな環境の中にある広い敷地を活かし、光や風をしっかりと取り込んだ住まいを目指した。休日は友人知人が集う賑やかな家にしたという施主のご要望から、吹抜けのある広々としたLDKを計画した。夏は大開口の掃出し戸から風が抜け涼しく、冬は薪ストーブや床暖房で暖かく過ごすことができる。リビングの一角には、ボルダリングができる壁と登り綱を設置した。
自然素材を適材適所に使用し、家族が自然と集まる大空間の家となった。

建築主	非公表
設計者	高原良彦さん ㈱坂田工務店
施工者	TEL(0826)452218
企画 立案者	設計者と同じ

ひろしま住まいづくり コンクール2019 概要

趣旨・目的 住まいづくりの現場で日々生み出されている、建築主の想いや事業者の創意工夫にあふれた住まいは、これから住まいづくりをする人にも、とても参考になるものです。
このコンクールは、優れた住まいづくりを表彰し、住まいづくりの見本・参考事例として広く紹介することにより、本県の住環境のさらなる向上と住宅産業の活性化に寄与することを目的としています。
耐震や省エネルギー、本県の地域性などに配慮しつつ、建築主の求めるライフスタイルを形にした、新しい「ひろしまの住まいづくり」が発見できることを期待しています。

スケジュール	エントリー登録受付期間	令和元年 7月19日～8月22日	最終選考	令和元年 12月 4日
	作品応募受付期間	令和元年 8月 1日～8月30日	結果発表	令和2年 1月17日
	書類審査	令和元年 10月 9日	表彰式	令和2年 3月17日
	現地審査	令和元年 11月 6日, 9日	受賞作品展(県内各市町)	令和2年 4月上旬から約1年間

審査委員会 (敬称略)	委員長	福田 由美子	[広島工業大学 教授]
	委員	有我 敦	[(独法)住宅金融支援機構中国支店 支店長]
	委員	元廣 清志	[(公社)広島県建築士会 会長]
	委員	豊田 隆雄	[(一社)広島県建築士事務所協会 副会長]
	委員	山田 孝延	[(公社)日本建築家協会中国支部 教育・表彰委員長]
	委員	岩田 忠二	[(一社)広島県建築センター協会 理事長]
	委員	長谷川 順	[広島県住宅産業三団体協議会 世話人代表 (一社)広島県住宅産業協会 事務局長]
	委員	小島 秀幸	[(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部 生活者広報渉外委員]
	委員	的場 弘明	[広島県 建築技術部長]

応募総数 41作品(リフォーム部門18作品,新築部門18作品,空き家再生部門5作品)

表彰作品
◎広島県知事賞 1点
◎リフォーム部門 最優秀賞1点 優秀賞2点 奨励賞1点
◎新築部門 最優秀賞1点 優秀賞2点 奨励賞1点
◎空き家再生部門 最優秀賞1点 優秀賞1点

審査の観点 応募作品を次の観点から総合的に審査し、賞を選考

共通の観点

- 一般家庭で見本となる工事内容や価格で、いつまでも広島県に住みたいと思える魅力ある住まいづくりを実現している。
- 設計や工事の過程で生じた困難や問題を、創意・工夫や技術力によって解決している。

リフォームの観点

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、それぞれの住宅に合った改修技術を用いて品質の向上を図っている。
- 住まいに対する居住者の思いへの配慮、世代や世帯構成の変化への対応、自分らしいライフスタイルの実現など、多様なニーズに対応している。

新築の観点

- 高い省エネ性、耐震性、耐久性などを備え、長期にわたって活用することが可能な良質な住宅である。
- 県産材や自然素材の利用、地域や街並みとの調和、健康で快適な居住環境の実現など、多様なニーズに対応している。

空き家再生の観点

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、それぞれの住宅に合った改修技術を用いて品質の向上を図っている。
- 新たな居住者が、地域の気候風土やロケーションを生かし、自分らしいライフスタイルを実現している。